



「白鷹展望台より月山を望む」

短歌・五十嵐たけ

今年の紅葉は、近年まれに見る美しさで十年ぶりとか。秋のドライブを十月二十一日から二十五日まで、各地区ごとに行かない、いずれも天候に恵まれ見応え充分な一日でした。今回は、鮎貝・蚕桑地区の皆さんをご紹介します。

紅葉狩り デイ・サービスセンター

秋を見た

樋口 侃

「秋」といえば木枯しが吹き、木の葉がはらはらと落ちる。なんとなく寂しい思いが浮かぶのが、私の秋でした。

去る十月二十一日、デイ・サービスセンター計画による秋の野山見学。以前見たことのある杉沢観音でした。やしろの木々はすっかりのび、いかにも鎮守の杜らしい眺めでした。観音様をとりまく紅葉は、見事に美しく心をいやしてくれました。稲杭をかたづけける人、大根を背負って家路に急ぐ女。それに、時折り吹く風に舞あがる紅や黄色の木々の葉、みどりの杉でおりなす風景は、人々の心に秋を満喫させてくれました。



▲杉沢観音にて蚕桑地区の皆さん

あっぱれ

小関 三郎

十月二十一日。デイ・サービスの車は走る。軽やかで、眼にうつる景色も鮮やか近づくにつれて、もみじが眼を引く松も杉も、ダケカンバも彩りを増して見える。この時でなければ見られない。自然の美に、あっぱれ。手ぬぐいの農夫、蓑の農夫も色を添えてもみじも農夫も日本一。空も澄み切っている。家に帰ってカラーテレビを覗いたがどこか物足りないようだ。気も心も日本一。あっぱれ、あっぱれ。



▲大平山にて鮎貝地区の皆さん

利用者の声

生きがい 照井 文吾

デイ・サービスセンターにお世話になり早や四年になります。センターに来て、温かい職員方の指導をうけ、仲間もでき楽しく生きがいが出ました。センターで一日の一部を山寺通りの替え歌で披露してみます。「皆々様よ皆々様よ、死んでから極楽願うより、生きてる内、後生願へ。朝夕バスに乗せられて、デイ・サービスセンターに。センターでは、やさしい職員さんにお風呂に入れてもらったり、頭を洗い爪を切って、おまけに化粧までしてもらい。リハビリ体操で一二三。風船パレーや輪っか投げ。ゴルフ、玉投げ、ボーリング。毎月一度の誕生会。オセロゲームやカルタとり。みんなで唄をうたったり。頭の体操でボケ防止。こんな良いところにもない。センターは、本当の極楽だ。」

趣味のコーナー

園芸 鈴木 宇作 (八十五歳)

年間を通じて、全てのクラブ(運動・器楽・手芸・御詠歌・園芸)に積極的に参加している。その中でも特に、園芸においては、担当職員の師匠としての役割を担い、毎年、中庭一杯に多種多様な花々を咲かせて、皆さんを楽しませてくれている。



さまざまな趣味をもち、それを生き甲斐として生活をしておられる入所者の方々をご紹介します。コーナーです。

文芸 樋口 とき (七十歳)



入所前より、新聞・雑誌等に投書。その他、同人誌に短歌・川柳・小説などを発表し活躍している。入所後も意欲的に執筆活動を続けており、現在は、慰問の子供達やボランティアの面会をきっかけに、童話にも取り組み、すでに40作の作品を書き上げている。「これが、私の生き甲斐です。」と語る笑顔は、実に若々しい。

白樺の高き梢に小鳥等は さえずり遊ぶ昨日も今日も

手芸クラブ



昭和56年発足。手芸を通して心身に刺激を与え、残存機能を保持すること、入所者同志の交流や、社会参加を図ることを目標に、クラブ活動を楽しんでいます。

- ☆最近の完成作品例―
- ☆ちぎり絵「高砂」「花咲かじいさん」「赤富士」「一寸法師」など
- ☆まゆ花
- ☆運動会用の紅白まり
- ☆クリスマス用のリース
- ☆各種コイン手芸
- ☆各種折紙細工
- ☆文化刺繍

心を込めて作る喜び

白光園手芸クラブは、和気あいあいとした家庭的な雰囲気の中で、雑談や音楽に興じながら、様々な共同作品に取り組んでいます。また、「昔とったきねづか」を発揮し、個人的に取り組んでいる方もいらっしゃいます。完成した作品は、入所者の生き甲斐に結びつくよう個展を開いたり、町社協主催の「高齢者作品展」や仲間文化祭等に出品するなど、広く園内外に発表の場を設けています。これからも、心を込めて、素敵な作品を作り続けて参ります。

クラブ紹介

